

外国語学部 2023 年度前期セメスタ-留学実施報告

外国語学部セメスタ-留学制度の一環で、本学部生を下記の協定校に派遣したことを報告する。

<セメスタ-留学先（協定校のみ）一覧>

派遣国	大学名	派遣期間	派遣者数
オーストラリア	Deakin University	2023.4.17~2023.8.14	2名
カナダ	University of Calgary	2023.4.22~2023.7.23	4名

本留学プログラムの実施目的は、下記2点である。

- (1) 各国留学生らとともに、英語の4技能に加え、語彙、文法、発音等を学び、実践的な英語運用能力を向上させる。
- (2) 留学を通じて、グローバル社会で求められる応用力・コミュニケーション力と、外から日本を見ることによって深まる自文化への理解力とその発信力、留学先国・地域やそこに集う各国留学生の母国事情・文化への理解力を、実体験を通じて向上させる。

上述の目的に沿って、派遣学生は各国の留学生らとともに、各大学が実施する English Program に参加し4技能の向上に努め、加えてクラス内外での主体的な学生間交流の中で、他国文化への理解に努めつつ、自分自身の母国の歴史、文化、社会を世界に発信し、相互に理解し協調しあうことの重要性を学んだ。

当初は、授業スタイルや各国留学生の特有のアクセント、英語を駆使して自らの考えの説明や建設的な議論を行うことの難しさ等に戸惑いながらも、積極的なコミュニケーションに努め、英語力の向上等に励んだ。

また、限られた留学期間で最大限の効用を得るために、授業外の各種アクティビティや大学のボランティア活動に積極的に参加し、クラスメイト以外の現地学生や新入生らとの主体的な学生交流を通じて、英語力の更なる向上に努めた学生もいた。

日常生活では、文化的背景が異なるホストファミリーやローカルコミュニティーとの交流を通じて多様な価値観に触れることができ、これは自身のキャリア形成に資する視野の拡大にもつながった。

今回の留学は、帰国後の専門的な学びへの動機づけと各学生のキャリア形成への重要な機会となった。

外国語学部 2023 年度後期セメスタ-留学実施報告

外国語学部セメスタ-留学制度の一環で、本学部生を下記の協定校に派遣したことを報告する。

<セメスタ-留学先（協定校のみ）一覧>

派遣国	大学名	派遣期間	派遣者数
カナダ	Block University	2023.9.9～2023.12.12	6名
カナダ	University of Calgary	2023.9.16～2023.12.19	6名
アメリカ	Murray University	2023.8.13～2023.12.12	2名
アメリカ	Utah Tech University	2023.8.14～2023.12.17	2名
オーストラリア	Deakin University	2023.8.8～2023.12.10	4名
オーストラリア	Queensland University of Technology	2023.8.23～2023.12.25	3名

本留学プログラムの実施目的は、下記2点である。

- (1) 各国留学生らとともに、英語の4技能に加え、語彙、文法、発音等を学び、実践的な英語運用能力を向上させる。
- (2) 留学を通じて、グローバル社会で求められる応用力・コミュニケーション力と、外から日本を見ることによって深まる自文化への理解力とその発信力、留学先国・地域やそこに集う各国留学生の母国事情・文化への理解力を、実体験を通じて向上させる。

上述の目的に沿って、派遣学生は各国の留学生らとともに、各大学が実施する English Program に参加し4技能の向上に努め、加えてクラス内外での主体的な学生間交流の中で、他国文化への理解に努めつつ、自分自身の母国の歴史、文化、社会を世界に発信し、相互に理解し協調しあうことの重要性を学んだ。

当初は、授業スタイルや各国留学生の特有のアクセント、英語を駆使して自らの考えの説明や建設的な議論を行うことの難しさ等に戸惑いながらも、積極的なコミュニケーションに努め、英語力の向上等に励んだ。

また、限られた留学期間で最大限の効用を得るために、授業外の各種アクティビティや大学のボランティア活動に積極的に参加し、クラスメイト以外の現地学生や新入生らとの主体的な学生交流を通じて、英語力の更なる向上に努めた学生もいた。

日常生活では、文化的背景が異なるホストファミリーやローカルコミュニティーとの交流を通じて多様な価値観に触れることができ、これは自身のキャリア形成に資する視野の拡大にもつながった。

今回の留学は、帰国後の専門的な学びへの動機づけと各学生のキャリア形成への重要な機会となった。

以上

韓国フィールドワークで現地訪問機関などでも活動様子

1. 東亜大学との交流会（2023年9月4日 10:00~14:00）

本学との協定校である東亜大学は、9月4日10時に訪問し、1時間ほどキャンパスツアーの後、11時から13時半まで、昼食をはさんだ交流セミナーを行った。本学からは、「日本の食文化の歴史・現在と未来」、そして「日本の若者文化と若者言葉」について30分ずつ報告し、報告終了後には参加した約30名の東亜大学の学生たちと活発な討論が行われた。

（写真1）東亜大学の学生たちとの交流セミナーの様子



（写真2）東亜大学の学生たちとの交流セミナーの後、大学博物館前で集合写真



2. 釜山港湾会社訪問(2023年9月5日 10:00~12:00)

釜山港は韓国最大の港湾であり、アジア太平洋地域でも重要な物流拠点の一つである。その地理的位置と深い水深により、国際貿易の要所としての役割を果たしている。釜山港湾会社は、釜山港を運営および開発するために設立された。釜山港湾会社の広報館で、担当職員から釜山港の歴史、経済的な役割、観光名所としての魅力などを説明してもらった。

(写真3) 釜山港湾会社の広報館で、担当職員から釜山港の歴史、経済的な役割に関する説明してもらっている様子。



3. 慶尚大学での交流セミナー (9月5日 15:00~20:30)

滞在3日目、晋州の慶尚大学で、慶尚大学の日本語教育学科の学生たちと交流行事を行った。キャンパスツアーの後、私たちから、「日本の食文化の歴史、現在と未来」、そして「日本のカーボンニュートラルに向けたエネルギー転換」に関するプレゼンテーションを行った。交流セミナーの後、大学近所のレストランで交流会を行った。

(写真4) 慶尚大学での交流セミナーの様子



(写真5) 慶尚大学での交流会の後、レストランの前での集合写真



5. 全州でビビンバ作り体験 (9月6日 12:00~14:00)

韓国の料理文化に触れるために、ビビンバの発祥地である全州でビビンバづくりの体験を行った。ビビンバは、韓国料理の代表的な一品であり、その多彩な具材と調味料の組み合わせが印象的でした。ビビンバづくりの職人さんから野菜、ごはん、たんぱく質源、そしてコチュジャン（韓国の辛味調味料）の組み合わせお方法を教えてもらい、一つの美味しい料理に仕上げるプロセスは、調理の芸術とも言えるものであった。

(写真6) ビビンバの発祥地である全州でビビンバづくりの体験



6. 水野さんのツリーハウス訪問 (9月6日 15:00~17:00)

韓国でカフェ、宿泊施設、小道具店、木工体験などの経営を行う日本人の水野さん。元々は水野さんが韓国の奥さんと娘さんたちと暮らすために廃家韓屋を改造しが、ジブリの世界観と似ていると SNS やテレビで紹介され、話題となり、週末にはカフェに 150~200 人ほどのお客さんが来店する人気店になった。自然に囲まれたツリーハウスやカフェが癒やされるリラックスできる空間でとても印象に残った。店内もいろんな小物が置いてあって日本を感じさせる空間がとても良かった。水野さんが自分のやりたいことをやって、楽しく生きている様子が記憶に残り、印象的であった。

(写真7)水野さんのツリーハウスの入り口



(写真8)水野さんのツリーハウスの中のカフェで、水野さんが学生たちに自分の人生経験を語っている様子



7. セマングム広報館訪問 (9月7日 10:00~12:00)

セマングム広報館は、全羅北道群山市・扶安市一帯に干拓史上類例のない防波堤で、東北アジアの経済中心となるためとして開発が進められているセマングム事業の広報のために設置されたものである。セマングムの事業面積は409 km²、所要工事は防潮堤33.9 km、排水門2か所、防水定62.1 kmで、世界最大規模の干拓地であるといわれている(総工事費約2兆9,000億ウォン)。開拓用地では、農生命用地や産業・研究用地、環境・生態用地だけでなく、国際協力用地や観光・レジャー用地としても施設される予定である。工事が進められている間、環境汚染問題が提訴され、セマングム干拓事業に対する可否論争が起こり、工事が一時中断する事態もあった。そのため、環境団体等の反対運動に対して様々な環境保全の対策を行ってきた。今後、セマングムの将来の都市成長を効率的に支援し、低炭素グリーン成長を実現できるエコ公共交通中心のグリーン交通システムの構築を目指している。

(写真9) セマングム事業の現在と未来を説明してもらっている様子



(写真10) セマングム事業に関する説明終了後に職員さんと一緒に集合写真



8. 高麗大学との交流セミナー（9月8日 15:00～20:00）

高麗大学でのキャンパスツアー後に交流セミナーを行い、レストランで交流会を行った。翌日には、高・延戦のラグビー観戦をした。交流セミナーでは、「汚染水」の海洋放出と韓国の社会的な葛藤について講義を聞いた。なぜこのような問題がおきているのか、メカニズムや韓国の人々の反応まで詳細に知ることができた。賛否両論はあり、人によって考えも違うので一概にこれが正解とは言えないが、このような社会問題に関心や考えを持つことが大切だと感じた。

（写真 11）高麗大学の広報大使学生からキャンパス案内をしている様子



（写真 12）高麗大学での交流セミナーの様子



(写真 13) 高麗大学近所のレストランで交流会の様子



9. 烏頭山統一展望台訪問 (9月9日 14:00~18:00)

烏頭山統一展望台は京畿道坡州市炭峯面にある北朝鮮区域に臨む展望台である。民間人統制区域にある韓国軍管理下の都羅展望台と異なり、民間の韓国人も含め、事前の許可なしに自由に立ち入ることができる。韓国の人も、北朝鮮の人も同じ人種で同じ言葉話すのに、この柵が2つの国を作り出している。この柵を見たときにこの残酷な現実を実感し、とても胸が痛くなった。

実際に望遠鏡で北朝鮮の様子を観察してみたが、農業をしている様子が観察できた。日本と比べてみると、高さのある建物があまりない、店が少ないという印象を持った。観察できた地域が地方だったのかもしれないが、あまり開発が進んでおらず発展していないように感じた。この烏頭山統一展望台からは、平和と緊張感が共存した、なんともいえない雰囲気を感じ取ることができた。自分が基本的には戦争等とは遠い生活を送ることができているありがたみを感じるとともに、如何に自分が平和ボケしているかが良くわかる良い機会であった。

(写真 14) 北朝鮮が目の中の鳥頭山統一展望台で、南北分断の現実について説明してもらっている様子



10.韓国国立中央博物館訪問 (9月11日 10:00~12:00)

韓国国立中央博物館では、約41万点以上の遺物が所蔵されており、その中で約1万5000点が展示されている。1階の2館旧石器時代から大韓民国までの朝鮮半島の歴史に関わる展示がされている。先史、古代館では、旧石器時代から朝鮮半島を統一した高麗の前までを扱っており、原始的な道具から徐々に進歩していく様子が確認できた。石器は日本のものと比較して大きな違いは見られなかったが、技術が進歩するにつれ、独自性が出てくることに気が付いた。

土器がその代表例であり、特に、高麗青磁には目を奪われた。趣向を凝らした細工が施されており、目を疑うものばかりであった。伽耶の土器は、当時からの日本との交流を示すものとして展示されているようだ。また、新羅時代の金冠、伽耶の時代のイヤリングなどの装飾品はおしゃれなものが多く、現代的であると感じた。歴史の教科書で見た国の名前や戦争の名前、年号などを聞いて、改めて日本との古くからの繋がりを感じた。展示されているものも日本の博物館や教科書に掲載されているものも多く、韓国の歴史のみならず、アジア全体の文化の知見を深めることができたと思う。

(写真 15) 韓国国立中央博物館で、専門職員から博物館の展示状況について説明をしてもらっている様子



11.ソウル市エネルギー公社訪問 (9月11日 15:00~17:00)

ソウルエネルギー公社では、ソウル市のエネルギー管理をするために設置された機関である。現在は、ソウル市のゼロカーボン達成のために様々な工夫が行われている。最近では、太陽光を利用したゼロカーボンの取り組みが多く実施されていた。そんな中で私たちが特に印象的だったのが様々な種類の太陽光パネルである。例えば、太陽光パネルを壁や屋根に取り付けるという従来の方法ではなく、最初から壁と一体化している太陽光パネルがあった。またそれらの太陽光パネルは自動で動き効率よく太陽光を吸収することが出来る。他にもベンチに太陽光パネルが付けられており、その発電によってスマホの充電が出来るものもあった。また、大企業ばかり連携するのではなく、高い技術を持った中小企業やベンチャー企業を採用しているという話を聞き、広い視野で事業を行っているということに感心した。

(写真 16) ソウルエネルギー公社で、職員さんから壁に角度をつけてより効率的に発電を行うために設置された太陽光パネルについて説明してもらっている様子



(写真 17) ソウルエネルギー公社が設置しているベンチの太陽光パネルから充電された電気をスマホの充電に使える様子

